

— 株主の皆様とのコミュニケーションツール —

クラレ通信

第134期

2014年4—9月期 報告書

2014年4月1日～2014年9月30日

CONTENTS

- 1 ... 株主の皆様へ
- 2 ... 業績ハイライト
- 3 ... 2014年度第2四半期決算概況
／2014年度通期業績予想
- 5 ... [特集1]
デュボン社より買収したGLS事業のご紹介
- 7 ... [特集2]
「買収は通過点であり、ゴールではない。」
- 9 ... クラレグループトピックス
- 11 ... 財務情報
- 13 ... 株式情報
- 14 ... お知らせ
- 巻末 ... 会社概要

株式会社 クラレ

2014年度第2四半期について



代表取締役社長
伊藤 文大

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間(2014年4月1日~2014年9月30日)における経営環境は、日本経済は懸念されていた消費増税後の景気減速が明らかになってきました。世界経済は、米国経済は引き続き好調でしたが、欧州の景気回復のもたつきや、中国経済の停滞傾向継続、まだら模様の新興国経済など先行き不透明な環境にあります。しかしながら、当第2四半期連結累計期間の業績には大きな影響はありませんでした。

このような環境の中、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比23,344百万円(11.7%)増の222,613百万円、営業利益は2,287百万円(9.3%)増の26,945百万円、経常利益は2,153百万円(8.7%)増の27,048百万円、四半期純利益は1,269百万円(8.1%)増の17,035百万円と増収増益となりました。

一方、当社グループは持続的な成長を実現させるため、コア事業の世界戦略を加速するとともに、水・環境、エネルギー、光学・電子の各領域における次世代を担う事業の開発を積極的に推進しております。当期間中には、米国デュポン社からのビニルアセテート関連事業買収が完了し、水溶性ポリアルフィルムの米国における新工場建設を決定しました。

今後も不透明な経営環境が続くものと予想されますが、世界に存在感を示すスペシャリティ化学企業の実現に向けた諸施策を着実に実行してまいります。

14年度業績予想は、米国デュポン社から買収したビニルアセテート関連事業の業績予想(2014年6月~12月の売上高および暫定のれん償却を含めた利益影響)を反映し、売上高4,150億円、営業利益440億円、経常利益430億円、当期純利益260億円を見込みます。

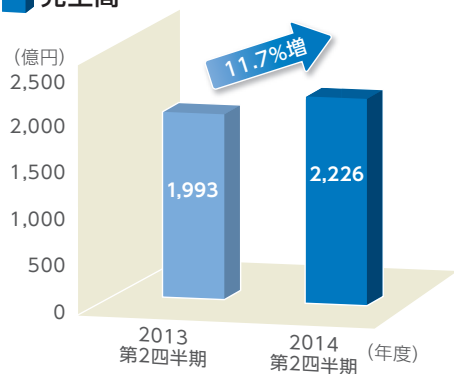
また、当社は株主の皆様への利益配分を経営の重要課題と位置付け、連結当期純利益に対する配当性向35%以上を目標としています。中間配当金は年初に公表いたしました通り、18円とさせていただきます。なお、当期の年間配当金につきましては、決算期を12月31日に変更する経過期間となる9カ月決算となりますので、予想連結当期純利益260億円を前提に、年初公表通り27円とさせていただきます予定です。

皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤文大

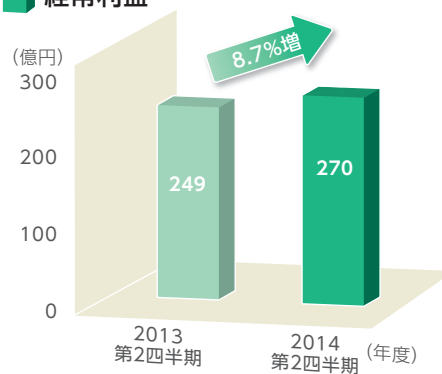
2014年度第2四半期業績ハイライト

■ 売上高



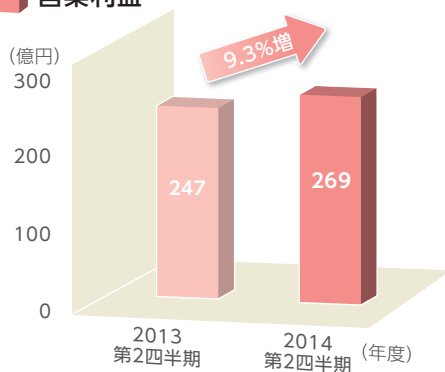
売上高は**11.7%増**の**2,226億円**になりました。
なお、半期ベースではこれまでの過去最高である
2013年度下期の2,142億円を上回りました。

■ 経常利益



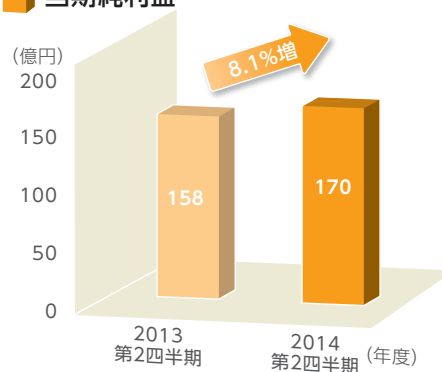
経常利益は**8.7%増**の**270億円**になりました。

■ 営業利益



営業利益は**9.3%増**の**269億円**になりました。

■ 当期純利益



当期純利益は**8.1%増**の**170億円**になりました。

2014年度第2四半期決算概況

金額表示は、億円未満を四捨五入しております。

決算期変更について

当社は今年度より決算期末を3月31日から12月31日に変更いたします。

これに伴い、2014年度は決算期変更の経過期間となりますので、連結対象期間は次の通りです。

	国内グループ会社	海外グループ会社
2014年度上期	4月～9月	1月～6月
2014年度下期	10月～12月	7月～12月

決算概況

(億円)

	当期	前年同期	増減	期初予想
売上高	2,226	1,993	+233(+11.7%)	2,200
営業利益	269	247	+23(+9.3%)	260
経常利益	270	249	+22(+8.7%)	260
当期純利益	170	158	+13(+8.1%)	160

参考

円/ドル	103	99	-	105
円/ユーロ	139	130	-	140
国産ナフサ価格(千円/kg)	71.0	65.0	-	72.0

セグメント別売上高・営業利益

(億円)

	2014年度 上期		2013年度 上期		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
● ビニルアセテート	1,051	248	901	245	150	3
● イソプレン	270	28	254	21	16	7
● 機能材料	260	4	231	5	29	△1
● 繊維	220	17	213	13	7	4
● トレーディング	587	18	530	17	57	1
● その他	323	13	305	14	18	△1
調整額	△485	△58	△441	△69	△44	11
合計	2,226	269	1,993	247	233	23

セグメント別の状況

● ビニルアセテート

光学用ポバールフィルムは液晶パネルの大型化により販売量が増加しました。西条事業所の新設設備は4月に稼働開始しました。ポバール樹脂は値上げの浸透により堅調に推移しました。PVBフィルムは引続き欧州建築市場低迷の影響を受けました。水溶性ポバールフィルムは旺盛な需要を背景に順調に拡大、それに対応するため米国において新工場建設(2016年1月稼働予定)を決定しました。6月1日に米国デュポン社より譲り受けたビニルアセテート関連事業は、製造・販売ともに問題なく統合を完了しました。EVOH樹脂<エバール>は、米国、アジアを中心に順調に拡大しました。

なお、6月1日に米国デュポン社より譲り受けたビニルアセテート関連事業の業績については、2014年6月度の1カ月分を当該セグメントに算入しています。

● イソプレン

イソプレン関連では、ファインケミカルが順調に推移しました。熱可塑性エラストマー<セプトン>は堅調に推移しました。液状ゴムは需要が回復しました。

耐熱性ポリアミド樹脂<ジェネスタ>は、LED反射板用途、コネクタ用途、自動車用途いずれも順調でした。

2014年度通期業績予想

機能材料

メタクリル樹脂は市況の低迷により引き続き苦戦しました。

メディカルは、歯科材料の販売が順調でした。人工皮革〈クラリーノ〉は、既存プロセスの中国移管等の事業構造改善効果が発現しました。

繊維

ビニロンは、ブレーキホース用途、アスベスト代替のFRC(繊維補強セメント)用途ともに好調に推移しました。

トレーディング

ポリエステルを中心とする繊維関連事業、化学品関連事業ともに順調に推移しました。また、海外拠点を拡充を進めました。

その他

その他事業は、総じて堅調に推移しました。

米国デュポン社より譲り受けたビニルアセテート関連事業の現時点での業績予想を反映し、通期の連結業績予想を下表の通り修正します。なお、今後、米国デュポン社より譲り受けたビニルアセテート関連事業の取得価額の資産および負債への配分を進めていく中で、損益に影響が生じる可能性があります。

2014年度通期業績予想

	今回予想 (14年4月-12月)	期初予想 (14年4月-12月)	増減
売上高	4,150億円	3,850億円	300億円
営業利益	440億円	440億円	-
経常利益	430億円	430億円	-
当期純利益	260億円	260億円	-

2014年度セグメント別予想

(億円)

	売上高			営業利益		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
●ビニルアセテート	1,051	1,139	2,190	248	147	395
●イソプレン	270	200	470	28	22	50
●機能材料	260	195	455	4	6	10
●繊維	220	140	360	17	6	23
●トレーディング	587	293	880	18	9	27
●その他	323	192	515	13	7	20
調整額	△485	△235	△720	△58	△27	△85
合計	2,226	1,924	4,150	269	171	440

デュポン社より買収したGLS事業のご紹介

1 | 概要

買収事業の概要について

2014年6月にデュポン社からビニルアセテート関連事業買収を完了し、GLS(Glass Laminating Solutions)事業として当社グループに加わりました。買収したGLS事業には、酢酸ビニルモノマー(VAM)、ポバール、ポリビニルブチラール(PVB)樹脂

およびフィルム、そしてアイオノマーシートといった製品が含まれます。生産拠点は、米国に3ヵ所、チェコおよび韓国にそれぞれ1ヵ所、また販売拠点はアジアも含めた20ヵ国におよんでいます。

ビニルアセテート事業の生産拠点

- VAM
- ポバール
- 光学用ポバールフィルム
- 水溶性ポバールフィルム
- PVB
- PVBフィルム
- 〈エパール〉
- アイオノマーシート



2 | 主力事業

ガラス中間膜用途PVBフィルム、アイオノマーシート

PVBフィルムは優れた透明性、ガラスとの接着性、耐貫通性を活かし、ガラス中間膜用途に使用されています。当社が主力としていた欧州の建築用合わせガラス向けに、GLSの強みである米国、アジア市場の自動車用合わせガラス向けが補完されることで市場と用途の両面での拡大展開を進めていきます。さらに、新たに加わったアイオノマーシートもPVBフィルム同様に合わせガラス中間膜用途に使用されます。アイオノマーシートはデュポン社が開発した合わせガラス用中間膜素材で、PVBフィルムの100倍の硬度、5倍の強度を持ち、また透明性や耐熱性にも優

れています。このような特長を活かして高い機能性と多様なデザインへの適応を求められる建築用途での採用が拡大しています。

アイオノマーシートを使用した
フランス モンブランの
エギーユ・デュ・ミディ展望台
(写真提供:Compagnie du Mont-Blanc)



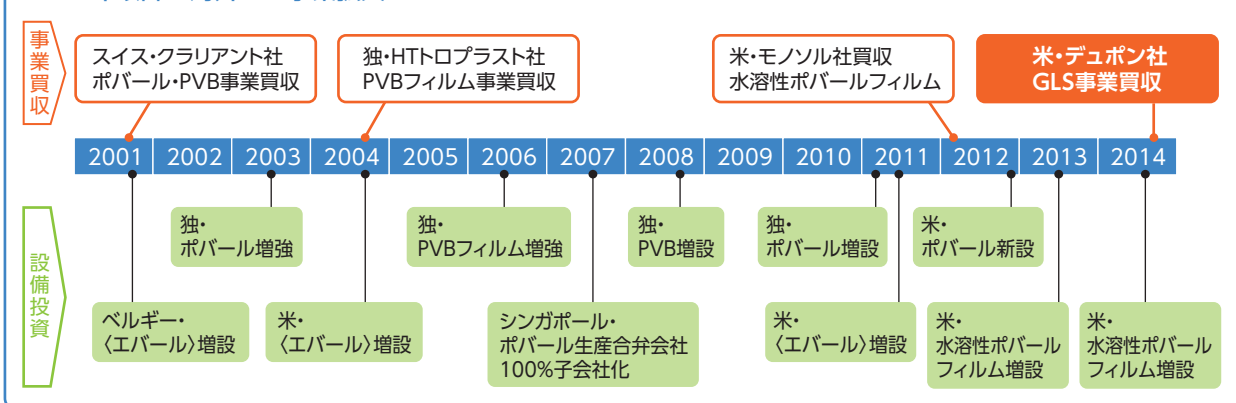
3 | 事業拡大

ビニルアセテート事業拡大の推移

1986年の米国での〈エパール〉の生産開始を皮切りに、当社はビニルアセテート事業の海外展開を進めてきました。2001年以降は事業の海外展開の強化とスピードアップを目的に事業買収を行うとともに、海外での積極的な設備投資を実施しております。

世界的な事業基盤強化と事業拡大を目的にデュポン社からGLS事業を買収しましたが、原料の内製化率の向上や製品および市場の拡大を通じて、グローバルNo.1の地位を確固たるものにします。

2001年以降の海外での事業拡大



「買収は通過点であり、ゴールではない。」～シナジーの最大化



取締役・専務執行役員 ビニルアセテートカンパニー長 村上 敬司

1 | Question

デュポン社からのGLS事業買収の狙いとは？

この買収は、「酢ビチェーン(酢酸ビニルモノマーを原料としたポバール、(エパール)などの製品群)事業を世界規模で拡大し、グローバルNo.1の地位を確固たるものにする。」という当社の基本戦略に沿って実施され、GLS事業はその戦略目標の早期達成に大きく寄与する潜在力を持っています。これまでPVBフィルム事業は、欧州の建築用中間膜中心でしたが、自動車用途の先駆者として長い経験と技術力を有し、米国、アジアの自動車用途で一定のシェアを持つGLSが加わることで、用途及び地域補完が

可能になりました。強度の強い高機能中間膜のアイオノマーシートも加わり、PVBフィルムメーカーとして、世界No.1を目指す体制が整いました。ポバールについては、建設中のヒューストン工場と併せて、米州で一気に大きな生産拠点が出来ました。PVB、MonoSol社の水性性ポバールフィルムの原料としての需要増大への対応と米国市場での積極拡販、及び世界四極体制での最適生産、最適販売による効率化が期待出来ます。買収目的のもう一つの大きな側面は、35万トンの酢酸ビニルモノマー(VAM)が手に入ったことです。主要原料であるVAMを安定的に安く調達することは、酢ビチェーン事業発展の肝となる部分で、即戦力のプラントが戦列に加わったことは大きな価値があります。VAMでは、短期的なシナジーの発現を目指していきます。

2 | Question

どのような方針で統合を進めているのですか？

事業統合は、買収直後からスタートしました。事業統合の期間は長すぎても短すぎてもダメなので、「1年間」を目標とし、方針、組織、プロセス・スケジュール等を決定し、協議を行っています。大事なことは、①既存ビジネスをしっかりとやること(安全・安定生産、ノーシェアロス)、②将来を見据えたグローバルな戦略・組織の構築、③シナジー効果の早期発現、④両社融合による統合の実現などです。

事業統合を進めるにあたっては、当社企業理念の「個人の尊重」と「同心協力」に通じる“Working Together”を合言葉とし、



デュポン社から移籍した
GLS事業責任者 スティーブ・コックス

私はデュポンに在籍していた時代に、さまざまな合併・吸収をじかに見てきました。そのため、村上さんから「相互の信頼と尊敬がクラレの考え方です。」と言われたとき、両者が互いに尊敬し合い、企業文化の違いと広い意味での多様性を尊重しながら一つになれる素晴らしいチャンスだとすぐに感じました。私がクラレに参加して素晴らしいと感じることは、すべての関係者がまず互いに知ることが大切だ、と明言していることです。実際、村上さんは統合という言葉さえ使いたがらず、「Working Together」を目標にしようと言いました。互いを知るために時間をかけ、仕事の仕方がどう異なるかを学び合い、将来のために「互いの長所を生かす」ことは非常に大切だと考えます。

により、収益の向上と更なる事業拡大を図る。～

取締役・専務執行役員
ビニルアセテートカンパニー長 村上 敬司

“best of both” (お互いの良い所)を取り入れることに努めています。GLSメンバーのモチベーションは高く、クラレメンバーも統合に向けて高い意識で事業統合に臨んでおり、既に“One Company”として事業統合を進めています。



統合推進に向けた会議(倉敷)



統合推進チームによるワークショップ(ドイツ)

3 | Question

ドイツの生産拠点を欧州独禁法の関係で2015年1月に売却する予定となっていますが、その影響について教えてください。

欧州独禁当局の指示により買収したドイツ工場を売却しなければなりません。もともとドイツとロシアにPVBフィルムの生産拠点を有しているところに、今回チェコの生産拠点が加わりましたので、生産・販売のネットワークが充実することになりました。



韓国PVBフィルム工場開所式

また、売却する生産拠点の規模も売上高で換算した場合にGLS事業の約10%ほどなので、買収全体でみても影響は軽微です。生産拠点という点では、韓国ウルサンにあるPVBフィルム工場が加わり、市場成長率の高いアジアでPVBフィルムの供給拠点が出来たことは、中国・アジア地域での自動車用途を拡大するという重要戦略にとって大きな力となります。

4 | Question

ビニルアセテート事業の将来像を教えてください。

当社は1980年代から「世界」を意識し、酢ビチェーン事業の〈エバル〉、ポパール、PVB事業等への設備投資とM&Aを海外中心に積極的に実施し、2012年のMonoSol買収と今回のGLS事業買収により、売上で2,500億円(12カ月ベース)を超える規模にまで拡大しています。利益面での全社貢献も多大ですが、それぞれの事業で積極投資のリターンを確実に実現することで、更なる酢ビチェーン全体での収益力向上を目指していきます。また、今後も設備投資、M&Aを通じて事業拡大を行うというスタンスは変わりません。現在、次期中期経営計画を策定中ですが、さらなる事業拡大に向けて多くの施策を織り込むべく検討を進めています。競合メーカーから、「クラレの背中が見えなくなった。」と言われるように、事業規模での優位性と強固な利益体質を築いていくことが、当社コア事業であるビニルアセテートカンパニーの使命であると思います。



をご紹介します。

※記載している情報は発表日時点のものです。

バイオマス由来のバイオ材料〈PLANTIC〉フィルムを日本市場で展開

オーストラリアのプランティック社(Plantic Technologies Limited)と日本および韓国市場における総代理店契約を結び、バイオマス由来のバリア材料(PLANTIC(プランティック))フィルムの国内展開を開始しました。

●〈PLANTIC〉フィルムとは

プランティック社が製造する特殊なコーンスターチ(デンプン)を主成分としたバリアフィルムです。通常、LDPE(低密度ポリエチレン)やPETフィルムとのラミネートで供給され、生鮮食品の包装材に用いることで、食品の鮮度保持による食品ロスの削減を達成し、食品産業と環境保全両面に貢献します。

●プランティック社(Plantic Technologies Limited)について

製造と研究開発を行う本社をオーストラリアに置き、ドイツに成形工場、アメリカとイギリスに販売拠点があります。同社のユニークな高分子技術は、遺伝子組み換えでない高アミロース成分の特殊なコーンスターチ(デンプン)をベースとしており、世界的特許を保持しています。バリア包装市場に幅広い商品を提供し、豪州、米国、欧州の大手スーパーで生肉、加工畜肉、鮮魚や生パスタ等の包装に採用されています。



〈PLANTIC〉フィルムの
主な用途例

7月

8月

9月

米国における産業用ポパールフィルム生産設備の新設を決定

産業用ポパールフィルムの旺盛な需要に対応するため、米国・インディアナ州での新工場建設を決定しました。

新工場建設の背景

産業用途全般におけるポパールフィルムの需要拡大(特に米国・欧州市場を中心に拡大)に対応し、供給体制を強化するために新拠点を開設、建屋および新設備の建設を決定しました。

新工場建設の概要

場 所	米国・インディアナ州・ポルテージ
投資内容	土地・建物・生産設備
投資額	約25百万USDドル
稼働目標	2016年1月



ポパールフィルムを
使用した個包装洗剤

2014年度第2四半期

連結損益計算書の要約

(単位:億円)

科目	第2四半期*1	前第2四半期*2	増減
売上高	2,226	1,993	233
売上原価	1,532	1,362	170
売上総利益	694	631	63
販売費及び一般管理費	424	384	40
営業利益	269	247	23
営業外収益	21	22	△1
営業外費用	20	20	0
経常利益	270	249	22
特別利益	—	—	—
特別損失	28	4	24
税金等調整前四半期純利益	242	245	△3
法人税、住民税及び事業税	87	89	△2
法人税等調整額	△13	△3	△10
少数株主損益調整前四半期純利益	168	159	9
少数株主利益又は少数株主損失	△2	2	△4
四半期純利益	170	158	13

*1: 2014年4月1日～2014年9月30日 *2: 2013年4月1日～2013年9月30日

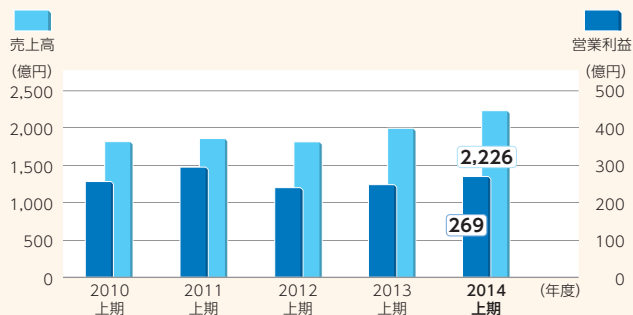
連結貸借対照表の要約

(単位:億円)

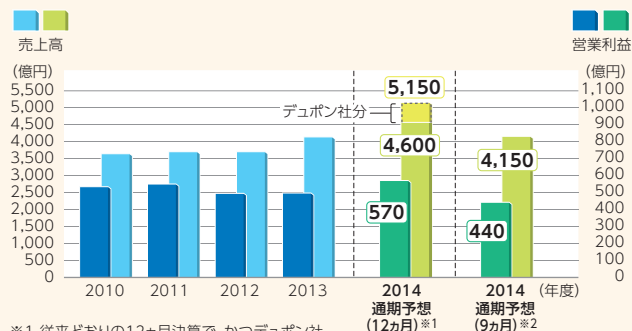
資産の部	第2四半期*1	前期*2	増減
流動資産	2,550	3,024	△474
現金及び預金	341	497	△156
受取手形及び売掛金	970	911	59
有価証券	58	583	△525
棚卸資産	999	886	113
繰延税金資産	63	59	4
その他	123	92	32
貸倒引当金	△5	△5	△0
固定資産	3,892	3,318	573
有形固定資産	2,333	2,222	110
建物及び構築物	507	447	60
機械装置及び運搬具	1,081	919	162
建設仮勘定	480	591	△111
その他	264	265	△1
無形固定資産	958	572	386
投資その他の資産	601	524	77
投資有価証券	468	393	75
その他	134	132	2
貸倒引当金	△0	△0	△0
資産合計	6,442	6,343	100

*1: 2014年9月30日現在 *2: 2014年3月31日現在

上期売上高・営業利益



通期売上高・営業利益



*1 従来どおりの12ヵ月決算で、かつデュボン社から買収したピルニアセード関連事業を12ヵ月分に換算した場合

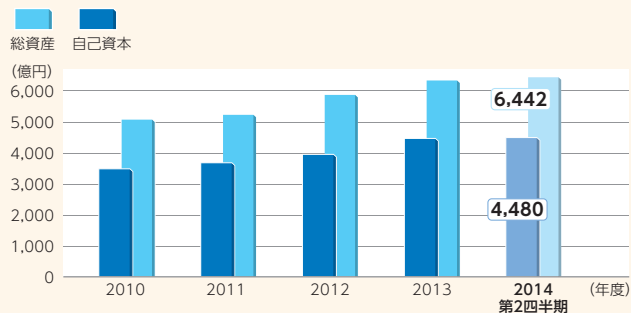
*2 決算期変更のため、2014年度は国内4-12月の9ヵ月、海外1-12月の12ヵ月となります。

※損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

(単位:億円)			
負債の部	第2四半期*1	前期*2	増減
流動負債	989	891	98
支払手形及び買掛金	393	354	39
短期借入金	78	131	△53
その他	518	406	112
固定負債	909	926	△17
社債	100	100	—
長期借入金	423	422	1
その他	386	405	△19
負債合計	1,899	1,818	81
純資産の部	第2四半期*1	前期*2	増減
株主資本	4,255	4,173	82
資本金	890	890	0
資本剰余金	872	871	0
利益剰余金	2,876	2,796	80
自己株式	△383	△384	2
その他の包括利益累計額	225	285	△60
その他有価証券評価差額金	89	69	19
繰延ヘッジ損益	0	△0	0
為替換算調整勘定	188	270	△83
退職給付に係る調整累計額	△51	△54	3
新株予約権	10	10	0
少数株主持分	53	56	△3
純資産合計	4,543	4,525	19
負債及び純資産合計	6,442	6,343	100

*1: 2014年9月30日現在 *2: 2014年3月31日現在

総資産・自己資本

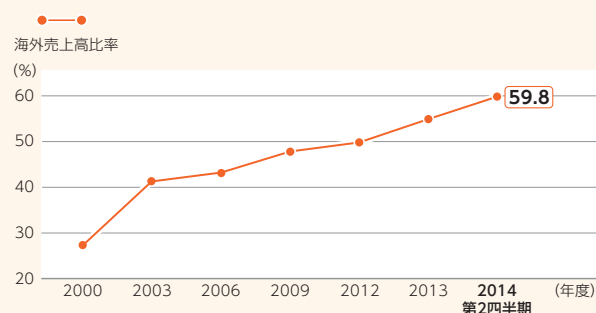


連結キャッシュ・フロー計算書の要約

(単位:億円)		
科目	第2四半期*1	前第2四半期*2
1.営業活動によるキャッシュ・フロー	290	233
税金等調整前四半期純利益	242	245
減価償却費	189	164
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△87	△93
その他営業活動による支出	△54	△84
2.投資活動によるキャッシュ・フロー	△903	△309
有形・無形固定資産の取得による支出	△262	△249
事業買収に伴う支出	△668	—
その他投資活動による収支	27	△60
3.財務活動によるキャッシュ・フロー	△16	47
借入金の純増減額	48	100
配当金の支払額	△63	△63
その他財務活動による収支	△2	10
4.現金及び現金同等物に係る換算差額	8	12
5.現金及び現金同等物の増減額	△621	△16
6.現金及び現金同等物の期首残高	1,006	299
7.新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	0
8.現金及び現金同等物の四半期末残高	385	283

*1: 2014年4月1日～2014年9月30日 *2: 2013年4月1日～2013年9月30日

海外売上高比率推移

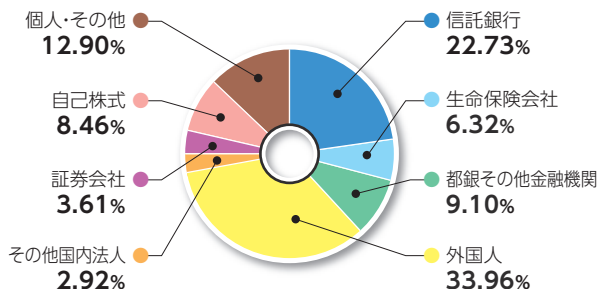


株式情報について

株式の状況

発行可能株式総数 **1,000,000,000 株**
 発行済株式の総数 **382,863,603 株**
 株主数 **46,948 名**

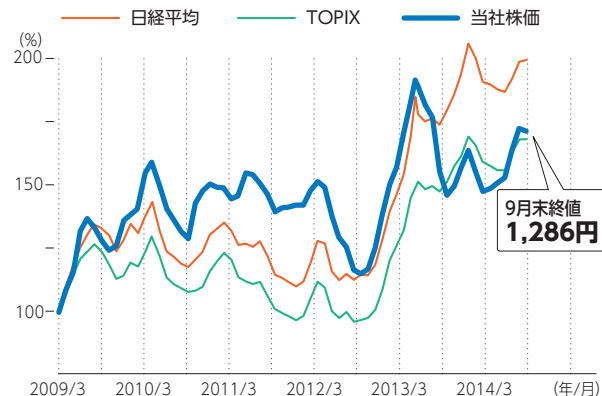
株主構成



当社株価と主要指標との比較

(2009年3月～2014年9月)

2009年3月を100として、各指標の動きを指数化して比較しています。



投資家向けページのご案内

当社ホームページ内の投資家向けページでは、決算情報の提供に加え、決算説明会や株主総会の模様の動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。

是非ご覧ください。

投資家の皆様へ



<http://www.kuraray.co.jp>

クラレ 検索

アンケートご協力のお願ひ

2014年12月19日(金)まで

「クラレ通信」をご覧くださいまして、ありがとうございます。

今後とも株主の皆様との双方向のコミュニケーションを図っていきたく思います。

つきましては、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、プレゼントをスピーディーにお届けするため、アンケートの回答を原則Web経由とさせていただきます。将来的にWebのみの受付に集約することを考えておりますので、パソコンから以下アンケートサイトにアクセスの上、是非ご利用くださいますようお願いいたします。

ご回答いただいた方には
2015年版クラレグループカレンダー
をプレゼントいたします。

2015年版 クラレグループカレンダー「GREAT SHOW」

独自の技術力で、未来に化ける新しい素材を生み出す、「独創」の精神を大切にしてきた私たちクラレグループのカレンダーは、才気あふれる若手人材を応援するという考えのもと、新進気鋭の写真家の作品のステージとしています。2015年度版カレンダーで取り上げたのは、雄大な自然風景を撮り続ける若手写真家の谷角(たにかど)靖さんの作品。フレームという劇場の中で繰り広げられる大自然のショーのような華やかさや力強さを備えています。



表紙



見開きB3サイズ
(タテ約52cm×ヨコ約36cm)
の両面印刷で7枚
14ページ構成の
カレンダーです。

8月

アンケートサイト(画面)への接続方法

Yahoo! JAPAN[®]やGoogle[®]などの検索エンジンからアンケートサイトを呼び出します。

株主ひろば

検索

または、下記URLを入力ください。

www.kabuhiro.jp

ご回答方法



アンケートナンバー

●●●●●●

アンケート画面に進む

アンケートサイト画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバー●●●●●●を入力の上、回答画面にお進みください。
事前に同封の配当金計算書・配当金領収証をお手元にご準備ください。

操作方法などの問い合わせ先

株式会社クラレ IR・広報部

電話：03-6701-1075

平日 9:00-12:00/13:00-17:30 土日祝 休み

* インターネットをご利用できない場合は、添付のアンケートはがきによるご回答も受け付けいたします。なお、はがきによるご回答の場合、プレゼントの発送が遅れる場合がございます。予めご了承ください。

株主ひろば

このアンケートは、株式会社アイ・アール ジャパン(IR支援会社)が運営するWebアンケートシステム「株主ひろば」を利用して実施しています。

クラレは世界的な社会的責任投資(SRI)株式指数の構成銘柄に選定されています。

会社概要

社名	株式会社 クラレ
英文社名	KURARAY CO., LTD.
設立	1926(大正15)年6月24日
資本金	890億円(2014年9月30日現在)
東京本社	〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
大阪本社	〒530-8611 大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビル オフィスタワー TEL(06)7635-1000 FAX(06)7635-1005
ホームページ	http://www.kuraray.co.jp

クラレグループの主な事業

ビニルアセテート	ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、 EVOH樹脂・フィルムの製造、販売
インプレン	インプレン系化学品、ポリアミド樹脂の製造、販売
機能材料	メタクリル樹脂、メディカル関連製品、 人工皮革の製造、販売
繊維	ビニロン、不織布、面ファスナー、 ポリエステル繊維の製造、販売
トレーディング	繊維製品、樹脂、化学品の輸出入、卸売
その他	炭素材、水処理用高機能膜・システムの製造、販売、 エンジニアリング事業

- (注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
2.この冊子に記載の()をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、
億円未満を四捨五入して表示しています。

役員 (2014年9月30日現在)

代表取締役社長	伊藤 文大
代表取締役・専務執行役員	山下 節生
取締役・専務執行役員	村上 敬司
取締役・常務執行役員	天雲 一裕
取締役・常務執行役員	川原崎 雄一
取締役・常務執行役員	雪吉 邦夫
取締役・常務執行役員	藤井 信雄
取締役・常務執行役員	松山 貞秋
取締役・常務執行役員	久川 和彦
取締役・常務執行役員	伊藤 正明
取締役(社外取締役)	塩谷 隆英
取締役(社外取締役)	浜口 友一
常勤監査役	蛭川 洋一
常勤監査役	真鍋 光昭
監査役(社外監査役)	藤本 美枝
監査役(社外監査役)	岡本 吉光
監査役(社外監査役)	名倉 三喜男
常務執行役員	古宮 行淳
常務執行役員	早瀬 博章
執行役員	マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler)
執行役員	武本 修一
執行役員	小野寺 正憲
執行役員	中山 和夫
執行役員	阿部 憲一
執行役員	佐野 義正
執行役員	ジョージ アブディ (George Avdey)
執行役員	豊浦 仁
執行役員	山根 幸則
執行役員	大村 章
執行役員	柏村 次史

【表紙の写真について】

カナダの最北東部にあるバフィン島。夏の北極圏は白夜になりますが、23時以降は太陽が低く、太陽の光が黄金色に変わります。
2015年度版クラレグループカレンダー「GREAT SHOW」の1月を飾る写真です。「自然」をテーマとした写真で12ヵ月を綴るこのカレンダーを、
アンケートにご回答いただいた方にプレゼントいたします。
ご応募に関する詳細は、14ページの「アンケートご協力のお願い」をご参照ください。